別紙様式2

令和3年度　県立水戸桜ノ牧高等学校自己評価表

目指す学校像	21世紀を担う若者としての勤労観・職業観を培うために、高い次元の「文武両道」を教育目標に掲げ、進路指導の充実と部活動の奨励に努め、思いやりのある豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 グローバル化が進む中、異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を養う等、本校が創立以来推進している国際教育の振興に努める。

昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	達成状況
進路指導の充実・部活動の活性化・国際教育活動の推進については、感染症対策の実施に伴い、十分な活動ができなかった。進学では、国公立大71名、私立大622名が合格した。部活動では、各種大会が中止となったが、感染症対策を行いつつ、各部が熱心に活動を行った。国際教育活動では、オーストラリア短期留学等対外活動が中止となったが、英語検定の取得に積極的に取り組んだ。昨年度卒業生の93.9%が準2級以上を取得した。 感染症対策を行いながら、各種活動を活発化することが課題である。また、家庭学習と部活動の両立に悩んでいる生徒が多いことが課題である。効率的な学習・部活動が求められている。	学習指導と進路指導の充実	①　自立した人材育成に向け、生徒一人一人へのきめ細かな学習指導と進路指導の推進 ・主体的・対話的で深い学びの実現に努力するとともに、授業時間の確保に努める。 ・タブレットPCを円滑に導入し、電子黒板等ICT機器の効果的な活用方法を検討する。 ・各種進路行事、課外、模試のあり方の再検討を随時行い、生徒の進路目標達成に努める。	B
	部活動の活性化	②　第1希望の進路達成と部活動の上位大会出場を目指す「高い次元の文武両道」の実現 ・部活動での人格育成を推進し、全人的な人間性の向上を図る。 ・部活動加入者の増加を図り、生徒一人一人が文武両道の実現に取り組むよう努める。 ・部活動集会を実施するなど 学校全体の一体感を深め、上位大会入賞を目指す体制づくりに努める。	B
	国際教育活動の推進	③　国際理解教育、国際交流活動を通し、国際化に対応できる人材育成の推進 ・オーストラリア短期留学に替わる活動を計画実践し、ブリティッシュヒルズ英語研修の事前・事後研修等の充実を図る。 ・ALTの活用、英検準2級全員受験やGTEC受験により、国際社会、実社会で通用する英語力を身に付けさせる。 ・留学生や近隣在住の外国の方々との交流を通して、国際化に対応できる人材を育成する。	C
	働き方改革の推進	④ より一層の教育活動の充実のため、業務改善に取り組み、勤務時間の適正化を推進 ・スクラップアンドビルドによる業務改善等に取り組み、勤務時間の適正化に努める。 ・ICT活用等を推進し事務作業の効率化を図る。 ・勤務時間のあり方に関する意識改革を図るとともに、関係者の理解を得られるよう努める。	C

三つの方針		具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」(スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	・21世紀を担う若者としての民労館・職業観を備え、自主的・自律的に学習に取り組むことができる人財。 ・思いやりのある豊かな心を持ち、将来への夢を育むことができるたくましい人財。 ・異文化に体する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を備えた人財。	b	B	・より一層、自主的・自立的に学習に取り組む資質の形成
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	・主体的、対話的で深い学びの推進を図るとともに、上級学校への進路実現を目指す。 ・「文武両道」のもと、全人的な人間性の向上に努め、豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 ・国際理解教育、国際交流活動の推進を図り、国際化に対応できる人材の育成を目指す。	b		・主体的・対話的で深い学びが実践できる授業方法の改善を推進
	「入学者の受入に関する方針」(アドミッション・ポリシー)	・中学で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、本校で高度な学力を身につけようとする生徒。 ・部活動や様々な学校行事に意欲的に取り組み、協働的な学びを大切にしようとする生徒。 ・本校で身につける資質・能力を発揮して、様々な課題に主体的に取り組み、自己と異なる意見も尊重し、国際社会出活躍使用とする意欲のある生徒。	b		・本校アドミッションポリシーを中学校、受検希望者に明確に伝達

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
	国語	基礎学力の向上を図る。	・国語に対する興味・関心を喚起し、基礎学力の向上に努める。	b	B	・ICTの活用
			・生徒が自主的に学習する環境を整え、その態度を育て読解力や表現力の向上を図る。	b		
			・読書習慣を定着させる。	b		

判定規準　A(a)：大変よくできた　B(b)：よくできた　C(c)：ふつう　D(d)：やや不十分　E(e)：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	地歴公民	学力の向上を図る。	・わかりやすい授業を心がけ、年間の進度に留意しながら日々の授業を展開する。	b	B	・共通テスト得点力向上 ・ICT活用方法の検討 ・探求的な学びの指導法の検討
			・学習の定着化を図るため問題集やプリントを使用し、平日や長期休業課外を実施して、大学入試に対応できる学力の向上に更に努める。	a		
			・社会に対する興味・関心を喚起し、生徒の政治的教養を育む。	b		
	数学	学力の向上を図る。	・平日や長期休業中に課外を実施し、基礎力・発展的学力の向上に努める。	a	A	・新課程における指導方法ICTの活用方法。 ・数学の基礎学力の差に対する指導の方法の工夫
			・定期考査やその他のテストを利用して学習の理解度を把握し、個々の生徒の実情に応じた指導を行う。	a		
		自主学習習慣の定着に努める。	・問題集や週末課題等を定期的に点検し、わからないことは随時質問できるような雰囲気作りに努める。	a		
		数学の本質を理解する授業への改善に務める。	・教科担当者同士で授業技術やICTの活用方法等の情報交換を綿密に行い、指導力の向上に努める。	b		
	理科	基礎・基本の定着化を図る。	・教科書レベルの知識を確実に理解・定着させ、学習内容の深化を図る。	a	B	・生徒実験の充実 ・ICT機器の活用 ・主体的活動を促すのための課題設定
			・放課後や長期休業中の課外を計画的に行い、学力向上に努める。	b		
		自然に対しての探求心を育成する。	・目的を持った観察・実験を行い、科学的な思考力を養う。ICT機器を効果的に活用して生徒の知的好奇心を育て、探求する素地を養う。	b		
教科	英語	外国語によるコミュニケーション能力を向上させる。	・これまでに学習したことを活かし、主体的・対話的学びにつながる、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を充実させ、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。	b	B	・個に応じた適切な指導を行うための観点別評価の工夫改善 ・タブレットなどICT機器を一層活用 ・英検について3年生の2級取得率は50%超過。学校でのサポートを継続実施
			・ALTとのティーム・ティーチングやコミュニケーション活動といった学びを通して、外国語の背景にある文化に対する理解や他者への配慮といった生徒の「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を豊かにする授業を行う。	b		
		3年間の段階的指導による進路実現を支援する。	・生徒の実態に沿った副教材を用いて、語彙や文法、表現といった言語の基本的な働きに対する理解を深める。	a		
			・授業での学習を通し、生徒に自分にとって必要な力が何かを考えさせ、それを補うことのできる課外指導を実施する。	b		
			・普段の授業に加えて、ALTとのティーム・ティーチングや、個に応じた指導を通して、高校卒業時、50%の生徒にCEFR B1レベル（英検2級合格レベル)の英語力を身につけさせる。（昨年度卒業生は約45%）	a		
	保体	生徒一人ひとりの健康の保持増進及び体力の向上を図る。	・年間通して県民体操を実施する。また、体育理論や体力つくり運動、さらに、水泳や持久走を実施する。	a	A	・健康の保持増進を主体的に実践する知識技能を育成 ・実生活に生かす運動計画作成能力の育成 ・ICTを活用した授業展開の工夫 ・観点別評価の改善と工夫
			・新体力テストの結果を、評価の参考データとする。	b		
		運動・スポーツ活動の計画的実践方法を習得させる。	・選択授業により、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していくための基礎とし、各学年に応じて段階的な指導を実施する。	a		
		運動・スポーツに親しむ態度を育成する。	・授業・体育的行事を通して、協調性やマナーや態度を育成する。	a		
			・武道を通して挨拶や礼儀等、伝統的な考え方を理解させる。	b		
		保健教育を充実させる。	・視聴覚教材を利用した健康・安全教育を図る。ICT機器を効果的に活用し理解を深める。	a		
	芸術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	・幅広い活動を通して、基礎基本を身に付け、表現に必要な知識や技能を身に付ける。	a	B	・指導内容の精選 ・表現と鑑賞のバランスのとれた題材構成の工夫
			・感性や諸能力を伸ばし、芸術への感心を深め、豊かな情操を養い、芸術のとらえ方や考え方を深化させる。	b		
			・鑑賞活動を通し、多くの作品に触れ感性を磨き、想像力や創造力を豊かにして、自己表現能力を高める。	b		
	家庭	生徒の自立を目指す。	・実践的な体験学習の機会を多くもち、基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。	b	B	・学校内外で実施できる実践的な学習の機会をより多く設定。
		課題解決能力の育成に努める。	・新聞やインターネット等で家庭生活に関する時事問題を取り上げ、自分の考えを持ち、表現する機会を設ける。	b		
	情報	主体的に情報を収集し、適切に選択、加工し、外部に表現できるようする。	・タイピング実習、文書作成実習、表計算実習等を通して、現代社会の中で必要な基本的な知識・技術の定着に努める。	a	B	・プログラミング教育導入のための調査・研究 ・SNS等の利用上のモラルや倫理観を養う教育の充実
			・インターネット検索実習等を通して、情報リテラシーを養う。	a		
		情報モラルの必要性や情報発信に伴う責任を理解できるようにする。	・情報モラル教育の内容見直しを通して、著作権や個人情報の保護の重要性を認識させ、また、自らの著作物に他人の著作物を引用させることで著作権のあり方を考えさせ、情報社会を生きるために必要な倫理観を養う。	b		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務	授業時数の確保に努める。	・カセット方式の着実な運用を進め、出張、学校行事等に伴う時間割変更を削減し、授業時間確保に努める。	a	A	・教育課程の適切に運用 ・効果的な広報、学校説明会の在り方を検討、改善
	新教育課程の実施への準備を進める。	・令和4年度教育課程実施に向けて、指導計画、指導方法や評価方法等についての研究を進める。	b		
		・より教育効果の高い教育課程を目指し、常に工夫・改善に努める。	a		
	本校の広報活動を充実させる。	・パンフレット（学校案内）、ポスターの更なる充実を図る。	a		
特別活動	HR活動を通しての自己研鑽を図る。	・各学年と連携するとともに、キャリアパスポートを活用しLHRの更なる充実を図る。	b	A	・学年と連携しHR活動充実 ・学校行事の準備や運営を通して生徒の主体性育成 ・部活動顧問会議を開催、課題の共有と改善 ・施設設備の清掃及び管理の徹底
		・「道徳・道徳プラス」の授業や日常のHR活動を通して、高校生の「心の教育」を図る。	a		
	生徒会活動や行事の活性化に努める。	・水桜祭・クラスマッチ等の行事を通して生徒会・委員会活動を活性化を図る。	a		
		・生徒の自主的な活動のもと、学校行事の充実化を図り、活力ある学校・クラス作りを目指す。	a		
	部活動を奨励する。	・更に加入率を上げるとともに、文武両道を堅持しつつ、有意義な高校生活を送れるように支援する。	b		
		・定期的な部顧問会議を開き、諸問題についての対応を検討する。	b		
		・水桜会館・部室・トレーニングルーム等の管理と整理に努める。	a		
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上に努める。	・端正な服装・頭髪の指導に努める。	a	A	・あいさつ運動の充実 ・マナーアップ活動の充実 ・交通マナーアップ活動及び地域連携の充実 ・各講演会の充実 ・自転車保険加入の推奨 ・いじめ未然防止活動充実
		・挨拶や正しい言葉遣いの励行、明るい校風作りに努める。	a		
		・携帯マナーの向上に努める。	b		
	安全教育について、諸関係機関や地域社会との連携に努める。	・交通事故防止と交通マナーの向上に努める。	b		
		・自主的に安全行動を取ることができるように努める。	b		
		・保険加入、自転車点検等、自己管理ができるように努める。	b		
	いじめの未然防止及び関係機関との連携に努める。	・生徒の自己指導能力の向上及び情報モラル教育の推進に努める。	a		
		・保護者との連携を密にするとともに、いじめの早期発見に努める。	a		
		・いじめの未然防止に積極的に取り組むとともに、関係諸機関との連携に努める。	a		
進路指導	各種進路情報を提供する。	・大学入学共通テストや各大学の入試制度などについて、学年・生徒へ適切に情報を提供する。また、オープンキャンパスや各学校の体験事業等への積極的な参加を促すための情報提供を行う。	b	B	・総合型、学校推薦型の指導方法の改善 学年中心から学校全体で対応へ 学校推薦型選抜（公募）の適性判断方法検討 ・学年間での課題の確実な継承
		・生徒の希望に応じて、赤本や過去問を中心に進路資料の充実を図る。	a		
		・「進路生活実態調査」を実施し、進路指導に役立てられるよう教員に提供をする。	a		
	各学年・他分掌との連携の強化を図る。	・進路行事や指導の内容について、学年と進路指導部が話し合い、共有をしていく。	b		
		・講演会など各行事について、各学年と調整して効果的な指導を行う。また、必要に応じて学年集会等での指導や進路相談を行う。	a		
		・生徒に還元できる校外研修の内容を教員へ提供をする。	b		
		・推薦の指導においては、個別の大学に適応したきめ細かな指導支援を行う。	a		
		・模試の効果的活用を図る。学年・教科で結果を分析し、対策を共有する。	a		
	各種行事・各種規定について検討する。	・類型科目選択でのコース分けでは、文理変更が生じないような指導の充実を図る。	c		
		・総合型選抜・学校推薦型選抜制度について、より効果的な指導法・指導体制を検討する。	c		
		・春季講習、模試の内容、実施のあり方について検討する。	b		
		・進路行事を精選し、その効果的な運用に努める。	a		
国際教育	国際理解教育、異文化理解教育を推進する。	・「異文化理解セミナー」を、異文化理解のための実りある機会とする。	a	B	・新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、活動内容を検討 ・コロナ禍における国際交流の推進
		・ブリティッシュ・ヒルズ英語研修を通して、異文化への理解を深め、実践的な英語力を向上させ、グローバル化社会に対応できる資質を養成する。	c		
		・校外で行なわれる国際理解教育関連行事やコンテストへの参加を奨励する。	b		
	英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。	・ALTを最大限に活用し、インタラクティブフォーラム等の大会出場者の指導や、全クラスで行うティーム・ティーチングの授業を通して、英語で積極的に表現する態度とコミュニケーション能力を養成する。	a		
		・英語科と協働し、英検準2級全員合格を目指し、国際社会、実社会で通用する英語力を身に付けさせる。	b		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健厚生	校舎内外の美化と清掃の徹底に努める。	・公共物を大切にする心の育成及び校舎内外を汚さないマナーの向上に努める。	b	B	・新型コロナウイルス感染症防止対策の継続 ・コロナ禍における保健衛生 ・防災関係の学校行事の円滑な実施
		・校舎内外の美化と自主的な清掃作業の習慣化に努める。	b		
		・5月と10月に安全点検を実施するとともに、 年間を通しても不良箇所の速やかな改良・改善に努める。	b		
	生徒の心身の健康管理に努める。	・各種検診を実施し、 疾病のある生徒については早期の治療や検診を勧める。	a		
		・心身の健康の保持増進を目的に、生徒の健康実態を速やかに把握し、担任・担当する教員等と協力して、その問題点を解決するため、学年・校内各部署及び保護者と連携し、健康相談やカウンセリング等の実施や健康教育等を実施することで、生徒の学校生活を円滑に進める。、	b		
		・生徒一人一人に対し、新型コロナウィルス感染症をはじめとする各種感染症の予防・啓発に努める。	a		
	職員の健康管理に努める。	・「衛生委員会」を充実・機能させ、 「要精密」「要観察」の職員が健康管理医や主治医に相談したり早期治　療に専念できる環境づくりを進める。	b		
		・「定期健康診断」「人間ドック」を勧める。学校医による「健康講話」を実施する。	b		
図　書	図書館の利用状況の改善を図る。	・教科・学年・他分掌と連携し、読書活動の啓発による貸出数のさらなる増加を図る。	a	B	・三年間を通した情報活用能力のカリキュラム・マネジメント ・感染予防下でのスタディーホールの利用 ・コロナ禍でも活動できる内容の検討
		・図書委員会の活動は、新型コロナ感染予防に留意しつつ、その活性化を図る。	b		
		・各種コンクールへ積極的に参加し、生徒の読書意欲を高める。	d		
		・図書館、スタディルームの利用を促進しつつ、その使用は新型コロナ感染予防のため臨機とする。	b		
	視聴覚機器の充実と円滑な利用に努める。	・校内放送機器・体育館放送機器の更新に努める。	c		
		・視聴覚委員会の活動は、新型コロナ感染予防に留意しつつ、その活性化を図る	c		
		・学校行事での放送の円滑な運営を図る。	c		
		・視聴覚機器や視聴覚教材の整備・充実を図るとともに、その積極的な活用を促進する。	c		
渉　外	役員の選出のための情報収集に努める。	・1年は合格者説明会で回収する役員経験・協力調査、2・3年は年度末に学年・専門委員の継続依頼調査を実施して、慎重かつ適切な人材の委員会への参加を図る。	a	B	・40周年事業等の行事の円滑な運営 ・感染症拡大時におけるPTA活動、今後のPTA活動の在り方の検討
		・役員経験の情報を中学校にも提供依頼するとともに本部役員の公募を実施する。	a		
	委員会活動の活性化を図る。	・学年・生徒指導委員会は生徒指導部と連携し、その内容の充実に努め活性化を図る。	b		
		・視察研修は平日に開催し、大学見学内容の精査をする。	c		
		・広報委員会は、質が高く、高校の様子が保護者に伝わる広報誌を作成することに努める。	a		
	父母と教師の会･後援会･同窓会の健全な活動の推進を図る。	・それぞれの意見や要望を十分に汲み取りつつも、学校は主体性をもって対処する。	a		
		・保護者の本校の教育活動への理解を促進する。	b		
情　報	本校ネットワークの安全かつ適正な管理運営に努める。	・情報セキュリティ実施手順をふまえ、ネットワーク上の全校共有フォルダの文書等の安全性の向上を図る。	a	B	・電子黒板、タブレット、校内Wi-Fiの導入により、リモート授業の配信をする専用の教室や機材等の準備およびその研修を計画
		・必要に応じてウィンドウズのアップデートやセキュリティ対策プログラムを適用しシステムの安全管理に努める。	a		
		・情報漏洩及び不正アクセスを防止するとともにネットワーク機器の保守を定期的に実施する。	a		
		・PCスタッフ委員会で各教室の電子黒板の点検をする。授業等で使用する際、円滑な活用のサポートをする。	c		
	本校ホームページの適正な管理運営及び充実に努める。	・個人情報や著作権に十分配慮し、本校の情報を公開し、教育・部活動に関する情報を広く地域に発信する。	c		
	各種機器、ソフトウェアの保守・更新を行い有効利用を促進する。	・職員室のプリンター及び教員用PCを更新する。またそれら機器のソフトウェア等のバージョンアップを行う。	b		
		・各種文書、データの安全かつ適正な利用がなされるよう、各部、各学年と連携し、それらの有効利用が図られるように努める。	b		
		・タブレット、電子黒板の使用方法及び成績処理システム、各種ソフトウェア等について、各部・各学年との連携を図り、必要に応じて説明会や講習会を企画する。	c		
	緊急情報メール配信システムの適正な運営に努める。	・遅滞なく正確な配信に努める。教職員限定の配信に利用できるように所属、配信グループの登録を管理する。	a		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
1学年	生活習慣の確立と高校生らしいマナーの向上に努める。	・挨拶を励行し、言葉遣いなどの礼儀正しさを身につけさせる。	a	B	・スマートフォンの使用方法について、生徒自身が考え、場面に応じて適切に使用する心を育む指導方法の検討 ・課題の提出など期限を厳守する意識の醸成 ・授業等において話をしっかり聞き、メモをとるなどの習慣の育成
		・服装頭髪等の身だしなみを整える意識を高める。	b		
		・授業の始業時や集会・教室移動・提出物期限等の時間に対する意識を高める。	b		
		・スマートフォン類の使い方について、生徒自身がその特性をよく理解して、場面に応じて正しく使いこなせるような自制心を育成する。	c		
	授業を大切にし、基礎学力の充実や家庭学習の習慣化、適切な文理選択を目指して指導にあたる。	・授業に対する姿勢を大切にし、課題の未提出・忘れ物に対しては指導を講じる。	a		
		・定期考査や模擬試験の結果を参考にしながら適切に学習指導や進路指導を行う。	b		
		・小テストや補習などを通して、英数国を中心に基礎学力の定着を図る。	b		
		・英検やGTECなど、外部検定に挑戦することを推進し、そのための環境を整える。	b		
		・自分に合った文理選択を進路テーマとして、個々の進路に応じた面談等の指導を行う。	b		
	文武両道を実践し、学校行事や校外での活動への積極的な参加を推進する。	・部活動への参加を積極的に奨励するとともに、継続すること、決めた事をやり切ることの重要性を理解させる。	a		
		・部活動加入者に対して学業と両立していけるように学習環境を整える。	b		
		・学校行事や奉仕作業などを通して、周りと協力し、自主的に工夫して取り組む態度を育てる。	b		
		・課題超過の状態を解消するため、学年内で情報の共有を密にし、課題の調整を実施する。	b		
	生徒理解に努め、学年団の情報共有を密にし、個人でなく組織として生徒の指導に当たれるような体制を維持する。	・情報交換を密に取るとともに、保護者への連絡も交えながら、事態に対して組織として対処できるような学年団の形成に努める。	a		
		・誰でも意見を述べやすく、不安や課題を共有しやすい環境作りを学年として目指す。	b		
2学年	基本的生活習慣の確立し、モラルやマナーを守るとともに他者を尊重する態度を育てる。	・挨拶を励行し、場面に応じた言葉遣いや対応ができるよう礼儀正しい態度を育てる。	a	B	・清掃やスマートフォンの適切な使用など、生活習慣の乱れ対する指導の徹底 ・学習や進路について、長期的な見通しを持たせ、行動する指導を継続 ・学校行事に積極的に取り組むことの指導を継続。
		・高校生らしい服装や頭髪を心掛け、時間や期限を守る意識を育てる。	b		
		・スマートフォンの使い方については、生徒自身が適切な使い方を判断できるよう学年全体で指導する。	c		
		・面談等による生徒との対話や家庭との連絡を密にとり、関係職員、学校カウンセラーとも連携して、生徒理解に努め、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるように支援する。	a		
		・清掃指導を通して、自ら進んで場を清める姿勢を育てる。	b		
		・交通ルールの遵守やマナーについて繰り返し注意を促すことで登下校中の事故の予防を図る。	b		
	学習意欲、勉強の質の向上を目指すとともに、進路実現に向自ら律し自らを伸ばそうとする態度を育てる。	・自らの意思で主体的に学習に取り組む姿勢を育てるとともに学習方法に関するアドバイスを通して学習の質の向上を目指す。	a		
		・学問や学部・学科研究の機会を設け、将来の職業や卒業後の進路実現への意識の高揚を図る。	a		
		・成績上位者に対して課外を行い、受験勉強への意欲の向上を図り、受験に挑む雰囲気づくりの牽引役となる学習面のリーダーを育成する。	b		
		・学年職員間並びに学年職員と教科担当教員との連携を密にし、生徒の希望や状況に適した進路情報などの共有を図り、適切かつ有効な支援を講じられるように努める。	b		
		・探究活動において、昨年度からのレベルアップを図り、研究方法や論理の向上を目指す。	b		
	学校行事や部活動を通して、精神を鍛錬し、人間力の向上を図る。	・中堅学年として各部や委員会の中心となって活動し、集団を率いるリーダーシップの育成を図る。	b		
		・部活動や学業成績などの情報交換を学年、部顧問との間で密に取り合い、多面的な生徒理解に努める。	b		
		・学校行事やボランティア活動への参加を促し、より良い人間関係を築くための社会性を養う。	a		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
3学年	人間教育の土台であるため、基本的な生活習慣の確立、モラルやマナーを身につけ、素直な心や他者を尊重する態度を育てる。	・明るく元気な挨拶を励行するとともに、場面に応じた言葉遣いや対応ができるよう礼儀正しい態度を育てる。	b	B	・スマホやタブレットの使い方、探究活動の進め方を、学校全体で検討 ・オンライン授業について、学年による差異が生じないように学年・情報部が連携して準備、実践 ・学力差や進路意識の差が拡大していることへの対応 (学習課題の内容、成績評価方法、進路指導の在り方、LHR計画等、これまでの水桜スタイルの再検討が必要。従来の良さを残しつつ、現状に合わない慣例の廃止等の検討が必要)
		・高校生らしい服装や頭髪を心掛け、集団生活におけるルールやマナー、時間や期限を守るなどの基本的な生活習慣を身につけさせる。	b		
		・スマートフォンの使い方については、SNS上でのトラブル防止に努め、生徒自身が“適切な使い方”を判断できるよう粘り強く指導する。	a		
		・面談や家庭との連絡を密にとり、生徒理解・支援に努め、受験や学校生活における不安を少しでも和らげることで、欠席率の低下を目指す。	c		
		・清掃指導を通して、進んで場を清める姿勢を育てる。	b		
		・交通ルールの遵守やマナーについて繰り返し注意を促し、登下校中の事故の予防を図る。	b		
	「受験を通して人間的に成長せよ」のテーマのもと、大学合格を目標とするのではなく、受験を乗り越えることで、自己を見つめ、自ら律し自らを伸ばそうとする態度を育てることを目的とする。	・進路実現に向けた学習の量及び質の向上を図り、自らの意思で主体的に学習に取り組む姿勢を育て、やらされる勉強からの脱却を目指す。	b		
		・授業、集会による全体指導と個々に対応した個別指導や面談を効果的に織り交ぜながら、生徒自身が進むべき道を自らの力で選択できるよう支援する。	a		
		・受験制度や受験情報を適切に活用できるよう、担任間及び学年団の連携を密にし、保護者・生徒への受験情報の提供を充実させる。	a		
		・探究活動においては、テーマ別に担当教員を配置し、調査方法、論理の展開、プレゼンテーション技術などを改善することで研究のレベルアップを図る。	c		
	文武両道をやり通すことで、心身の健全な発達や精神を鍛錬するとともに、社会性や奉仕の心も育みながら人間力の向上を目指す。	・部活動や生徒会活動では、最高学年として、各部・各委員会の集団を牽引しながら、他者を思いやる心やリーダーシップの育成を目指す。	b		
		・部活動と学業の両立を最後まで支援し、「やり切る」「やり抜く」経験を通して、自らの力で生き抜く力の伸長を図る。	b		
		・学校行事やボランティア活動、校外での体験活動への参加を促し、クラスの団結を深めたり、学校の枠を超えた多様な立場の方と交流したりする経験を通して、より良い人間関係を築くための社会性を養う。	c		

判定規準　A(a)：大変よくできた　　B(b)：よくできた　　C(c)：ふつう　　D(d)：やや不十分　　E(e)：不十分